Citizens Support Center NPO HINO
特定非営利活動法人市民サポートセンター日野

2014年1月20日発行
通信第21号

LinK

Linkは、わたしたちのNPOが市民と市民、市民と行政、市民と事業者、市民と学校、子どもと大人といった様々な人たちをリンク(Link:つなぐ)することを、そして心と心をつなぐことを目指しています

発行人　今村久美子　　編集人　土屋和子
〒191-0062 日野市多摩平2-9　　http://www.angel-hino.com/
Tel&Fax 042-583-1528
特定非営利活動法人市民サポートセンター日野／郵便振替番号 00180-0-612689

NPO法人設立10周年を新たな一歩として

特定非営利活動法人市民サポートセンター日野 ■ 理事長　今村久美子

「市民サポートセンター日野」は、去る2013年11月28日に、NPO法人設立10周年を迎えました。10周年という節目を迎えることが出来ましたのも、ひとえに皆様方の多大なご支援のお蔭でございまして、心よりお礼を申し上げます。

「市民サポートセンター日野」の前身は「日野市女性社会事業協会」です。日野市は「日野市女性行動計画」を作成するに当たって、1982年に第1期婦人問題懇談会を招集しました。そこで、くらしに関する基礎調査を行ったところ、育児・介護・家事等支援の要望が圧倒的多数を占めました。この結果を踏まえて第2、第3、第4の婦人問題懇談会は一貫して、育児・介護・家事等を支援する「日野市女性社会事業協会」の設立を求め、1991年に実現の運びとなりました。今でこそ、「ファミリー・サポート・センター」が全国に広く展開されていますが、その当時、「事業協会」の事業はまさに先駆的なものでした。

この「事業協会」がNPO法人として再出発して10年、私たちは「事業協会」設立の経緯を忘れること無く、家族支援と地域貢献に日々全力で取り組んでおります。

現在、国は、これまで行政が独占してきた公共サービスを公に開き、NPO等が積極的に公共サービスの提供主体となることを目的にした「新しい公共」の拡大と定着を推進しています。そしてこの「新しい公共」の担い手として、また主役の一つとしてNPO法人を位置づけていますが、同時に、より社会貢献活動を広げていくために「認定NPO法人」の拡大を推進しています。

「認定NPO法人」は税制優遇措置が適用されるために、一般のNPO法人より、客観的な基準において、より高い公益性を持っていると判定された法人であることが必要です。その上で「認定NPO法人」制度は、寄付する側とされる側、ともに税制上の優遇措置を受けることが出来ます。寄付をした場合、確定申告をすることによって、寄付した金額の50%近くが減税となります。

また直接社会的活動が出来なくても、NPO法人等に寄付することによって、その活動に参画することが出来、寄付行為で社会との接点を持つことが出来ます。寄付税制設置は、寄付文化の拡大を推進することによって、多くの人々が寄付を通じて公に参画することを促すためのものでもあります。

今、「認定NPO法人」の活性化と、寄付文化の浸透が同時に求められています。

「市民サポートセンター日野」は現在、「認定NPO法人」へ向けて事務的手続きを進めています。

皆様方のご理解とお力添えを頂けます様よろしくお願い申し上げます。

NPO法人市民サポートセンター日野10周年に寄せて

日野市長 ■ 大坪　冬彦

NPO法人市民サポートセンター日野、設立10周年誠におめでとうございます。法人設立当時、国は、「次世代育成支援対策推進法」や「仕事と育児両立支援事業」等様々な法や政策を掲げ、日野市においても「日野いいプラン2010」が代表するように、市民との参画、協働、連携による計画や取組みが次々にスタートした時期でした。

そんな中、活動を始められた貴法人は、この10年「地域と共に支え合い」をキーワードに、「日野市ファミリーサポートセンター事業」を始め「コミュニティカフェ カフェ・グリーン」「日野市子ども支援事業そだちあい」他自主事業から受託事業に至るまで幅広く事業展開する中で、着実に地域の輪を広げられ、その存在は、地域の中で大きいものとなりました。

中でもファミリーサポートセンター事業は、妊産婦から子育て中の保護者、お年寄りに至るまで、家事・育児のサポートを相互援助という形で構築、定着させ、現在は会員が5,000名を超えるとのこと。これは、貴法人の活動における出会いと助け合いの気持ちが新たな繋がりを生み、新たな会員の登録へ繋がった結果だと思っています。

貴法人の活動により、真にぬくもりのある確かな「つながり」「人の輪」が地域に根付き育つよう、そして、日野市に住み続けたい、日野市で子どもを産み育てたいという声が一人でも多くなるようこれからも共に歩んで行きましょう。

NPO法人設立10周年を迎えて
～私たちがこれから目指すものは?

副理事長 ■ 早川　裕子

市民サポートセンター日野をNPO法人として立ち上げてから10年が経過したと聞くと、月日の経つ早さに驚くとともに、これまでにあったさまざまなことが思い出されて、10年の重みをひしひしと感じます。この10年の間に、どれだけスタッフや会員の方たちの熱意や労力が注がれてきたか、どれだけ市職員の方々のお力添えをいただいたことか…。それらがすべて積み重なって、当NPOはこれまで何とか歩き続けて来られました。

その間もこれからも、私たちをとりまく社会は動き続けています。当NPOもその動きに合わせて進めるよう、アンテナを張って新しい活動を取り込みつつ、生き延びてまいりました。その中にあっても、この組織の原点でもあるコアを見失ってはならないと努めてまいりました。それは、日野市民、特に生き辛さを抱えた女性たちを応援しようという意気込みです。

現在当NPOは「認定NPO法人」の資格取得のための課題にとり組んでおります。それは取りも直さず、多くの方に「あの団体だったら寄付をしよう」と思っていただけるような活動を提供できる組織にするよう、一層努力していくことに他なりません。

10年を生き延びたこのNPOは、いま改めてその中核となる初心を保持しつつ、真に市民の役に立ち、活動ぶりを広くわかってもらえるような団体に成長できるよう、力を合わせたいと願っています。

団地建て替えと共に歩むNPO法人設立10周年

理事 ■ 笹原　武志

私にとってNPO法人の歩みは建て替えの歩みでもあります。その間、多摩平団地は建て替えられ「多摩平の森」として生まれ変わり、NPO法人も新しく出来た「多摩平の森ふれあい館」に入りました。さて、建て替えは1528戸を建て替えたところで終わり、余った用地は街づくりとして活用されることになりました。

駅前商店街には「イオンモール」が今年11月にオープンする予定です。交番裏には民間マンション440戸ができます。旧第4団地には若者向けの「シェアハウス」、「農園付き住宅」、「高齢者向け住宅」が前の住宅を改修して活用されています。その北側には「福祉ゾーン」として日野市立病院を補完する機能をもつ福祉施設が民間業者により建設される予定です。団地の外側には日野市立たまだいら保育園、戸建て住宅、ユニクロ、スーパーさえきなどバランスのとれた街づくりが行われています。

NPO法人市民サポートセンター日野は、平成18年日野市市民活動支援補助事業として、多摩平団地のホームページ作成に団地自治会と協働しました。これは現在も自治会メンバーが手を入れながら活用しています。また、最近は団地自治会のイベントにカフェを出店してもらい、住民交流の場を提供してもらっています。NPO法人市民サポートセンター日野はこのように街に溶け込みながら大きく育っていくことでしょう。

「NPO法人市民サポートセンター日野」」とともに
～ミッションの実現に力を尽くして～

理事 ■ 酒井　照子

NPO設立10周年おめでとうございます。

私とNPOの出会いは初代事務局長下重さんとの出会いと重なります。

「フェミニストカウンセラー入門講座」受講を機に男女平等施策に係わるようになり、多くの先輩たちの活躍を見聞きし、只々困惑するばかりの私でしたが、下重さんの発言はいつも明確で的確でした。そんな憧れの下重さんから「多摩平の森ふれあい館」の総合受付業務のお誘いがあり、単純な私は即時に引き受けました。ミッションは「多くの方に愛される」ふれあい館の「顔」になることです。当時佐藤綾子実践女子大教授のパフォーマンス学で、演劇論の輪講と演習を受講していたので、ふれあい館受付を表舞台として、来館者、行政、スタッフ、UR、事務局スタッフとの関係をイメージし組み立てました。受付業務は想像を遥かに超え複雑なもので、度々トラブルが発生しましたが、いつも下重さんの後押しと男女平等課のご支援でなんとかこなしていきました。やがて「困った時は一先ずふれあい館」といった気持が地域や利用者の方に広まり、NPOがふれあい館の指定管理者になる一つの礎ができていったと思います。また理事の就任もこの線上のことと思っています。

現在の土屋事務局長のもとでNPOは大きく羽ばたき、時代のニーズに沿った展開を見せています。微力ながら私も頑張りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

活動の中の新しい芽に気づき、目と手と心をかけてNPOの理念を展開していきます

理事・事務局長 ■ 土屋　和子

他市でファミサポの立ち上げに関わりそれなりの成果を上げていた私に、日野のNPO法人でやらないか…と声をかけていただき、平成17年の冬、市民サポートセンター日野を訪れるために下りた豊田駅。昭和の香りのするアーケード街、京王ストアの生活感あふれる店頭の様子はモノクロ映画を見ているようでした。それから8年、私は市民サポートセンター日野とともに無我夢中で走り、私の中での日野は第2の故郷となりつつあります。

この8年間、私がまず大切にしたいと思ったのは、NPO法人の前身、日野市女性社会事業協会が1990年から始まり、そこに男女平等の精神とともに当時では珍しい「市民相互援助活動」を立ち上げ継続してきた先輩諸姉の歴史です。そのためには、今あるNPO法人の事業の継続とさらにNPOの理念に基づいた事業を展開していくことでした。

着任して初めての新規事業は、平成19年4月から0歳児ステーションおむすびと日野市子ども支援事業「そだちあい」。初めての土地で新規事業を開始することは、私にとって大きな試練でした。しかし、その試練があったからこそ先輩諸姉のご苦労と実績を知ることが出来、さらにNPO会員、日野市職員の方々のご理解、ご支援を得て、NPO職員としての私自身の成長があったと思い、深く感謝しております。また、幸いこの8年間は新規分野での事業とともに現事業から新しく展開できる事業の芽を感じ、その芽を事業化していくという機会に恵まれ、一昨年から自主事業「陽だまりプロジェクト」を発足させました。

今年度、NPO法人化10周年という節目を迎えて、認定NPO法人化という課題をクリアしようとしています。認定NPO法人は開かれた存在です。そのために、今まで以上にNPO法人としての強い発信力を持つための工夫をいたします。また、市民の方々からの発信を受け止め、NPO活動の原動力として実のある活動へと展開します。一人では何もできません。今後とも皆様のご理解ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

●組織の概要

あゆみ

1990年	先駆的な市民提案による市独自の助け合い制度「日野市女性社会事業協会」設立
2000年	国の新エンジェルプランによるファミリー・サポート・センター事業を日野市が導入
2003年	「特定非営利活動法人市民サポートセンター日野」設立
2004年	「日野市女性社会事業協会」の趣旨を「特定非営利活動法人市民サポートセンター日野」に移行し業務を開始（日野市女性社会事業協会を母体とした日野市官製NPOの設立）
2006年	ファミサポ会員1000名　地区サポーター活動開始
2007年	ファミサポ高幡支所開設、０歳児ステーションおむすび開所　日野市子ども支援事業「そだちあい」開始　多摩平団地自治会ホームページの作成（日野市市民活動（NPO）支援補助金交付事業）
2008年	おむすび親そだち講座開設　シニアのための携帯電話講習会　新選組まつり第１回出店　伊藤整展受付管理業務
2009年	多摩平交流センターふれあい便利帳制作・配布　ひのママのらくらく子育て応援マップ制作発行（日野市市民活動（NPO）活動支援補助金交付事業）　日野市立発達支援センターシステム構築に関する調査研究事業
2010年	おむすびころりん知恵袋制作発行（日野市市民活動（NPO）活動支援補助金交付事業）陽だまりプロジェクト企画立案
2011年	男の料理教室主催（多摩平交流センター指定管理者自主事業）　陽だまりプロジェクト（陽だまりカフェ　ふれんどさん養成事業　高次脳機能障害者と家族の会かしのきひの運営支援事業）　市立わらしこ保育園研修事業
2012年	親子CAP講座（多摩平交流センター指定管理者自主事業） スーパーダディ養成講座（日野市市民活動（NPO）活動支援補助金交付事業）　第１回ひの市民活動フェア参加　陽だまりプロジェクト
2013年	おかずクラブinたまだいら（日野市市民活動（NPO）活動支援補助金交付事業）　陽だまりプロジェクト 認定NPO仮認定申請　第２回市民活動フェア参加

役員構成

理事長	今村久美子
副理事長	早川裕子
理　事	笹原武志
理　事	酒井照子
理　事	土屋和子（事務局長兼務）
監　事	樫村正男

事業内容

1．子育て・家事一般・高齢者・妊産婦の支援に関する事業
2．男女共同参画社会の促進を図る事業
3．子どもの発達を支援する事業
4．地域の暮らし、市民の暮らしを支援するまちづくり事業
5．施設管理運営に関する事業
6．市民活動団体、企業、市民等との交流、連携、および協力事業

連絡先

住　所	〒191-0062　日野市多摩平２-９多摩平の森ふれあい館
TEL & FAX	042-583-1528
URL	http://www.angel-hino.com/

実施事業（2013年度）

委託事業	1．日野市ファミリー・サポート・センター事業（育児家事） 2．日野市子ども支援事業「そだちあい」 3．日野市一時保育「０歳児ステーションおむすび」 4．新選組のふるさと歴史館受付業務 5．小島善太郎記念館受付業務 6．育児支援家庭訪問事業
協定事業	1．日野市立多摩平交流センター指定管理 2．ひとり親家庭ホームヘルプ事業
自主事業	1．コミュニティカフェ　カフェ・グリーン 2．陽だまりプロジェクト ①陽だまりカフェ ②ふれんどさん訪問事業 ③おかずクラブ ④高次脳機能障害者と家族の会かしのきひの運営支援

事業の紹介

市民サポートセンター日野は、日野市からの様々な事業を受託しています。この数年は子育て支援、家族支援に関する事業の受託が増えました。歴史の古いファミリー・サポート・センター事業を中心にいくつかの事業を通して、市民がどんな暮らしをしているか、何に困っているか、どんなことに喜びを見出しているか…などが見えてきます。市民サポートセンター日野は、市民の日常生活にスポットをあてるサーチライトのようなものかもしれません。

市民の日々の暮らしを行政や市民の方々に発信できる団体でありたいと考えています。

ファミリー・サポート・センター

●市民の支持を得て、会員数5000名を超える

ファミサポでは毎年、6月と11月に育児支援者を育成する保育講習会を開いています。この講習会を8ポイント受講すると、家事支援に加えて育児支援（保育）が出来る提供会員になることが出来ます。現在提供会員は500名、総会員数は5000名を超えました。

11月には保育講習会終了後の恒例となっている会員交流会を開きました。今年は会員交流会の前に第1部として「目からウロコの楽しい子育て～接し方のコツをつかもう～」(講師永田陽子先生)を開催。ファミサポ初めての保育付講習会となりました。会員交流会では、地区サポーターさんたちの手作りフラワーやクッキーを楽しみながら、活動についての情報交換をしました。情報交換することにより、一人で行う活動の不安を解消したり新しい知恵を得たり、一時間半があっという間に過ぎました。地区サポーターさん、企画・運営、会場準備など、ありがとうございました。

0歳児ステーションおむすび

●預かりと親そだち講座でママ・パパ支援

0歳児ステーションおむすびは日野市一時保育事業です。30分500円で0歳児（誕生日の前日まで）のお子様を保育士が一時的にお預かりし保育する施設です。3.4か月健診会場の登録説明会では、健診受診者の80%以上の方が登録し、日野市一年間の出生数1500名のうち1000名以上のお母さんがおむすび登録で、万が一の安心感を得ています。

最近は、上の子の用事、通院などに加えて在宅の仕事中の預かりなども増えてきました。おむすびの特徴は、お預かりする機能とともに、親そだち機能を備えていることです。親そだち機能？　聴きなれない言葉ですね。親そだちとは、親が本来持っている能力を引き出し、夫や子どもとの関係性や地域とのつながりに働きかけていこうという講座です。現在は、赤ちゃんとのコミュニケーションのためのベビーマッサージ、ベビーヨガや発達心理学に基づいたわらべうた講座を行い、参加したママが家に帰ってパパに働きかけるという講座を行っています。保育士自身もわらべうたを習得し、保育中にわらべうたで赤ちゃんに語りかけ、その体験をお母さんに伝えるというユニークな保育を試みています。

日野市子ども支援事業「そだちあい」

●巡回により保育者を支援し、子どもの育ちを豊かにする

そだちあい事業は日野市内の保育園（公民）と認証保育所に年3回心理士が巡回し、保育園での行動観察、および保育士とのカンファレンスを行う事業です。保育士という専門家と心理士という専門家が子どもの育ちや保育室の様子について話し合い、日常保育の向上を図る事業です。また、保護者と子どもの状況について話し合い、子どもの成長を支援する個別相談、保育士向けの研修会を行います。また、NPO法人内にそだちあい事務局を置き、コーディネーターが保育園と心理士の調整を図ることや、保育士の相談を受け、心理士と共に保育支援を行っています。今年度は早期発見・早期支援という視点に基づき、療育施設と保育園に並行通園するお子さんへの支援方策についての研究活動を、市とも協働して実施しています。

事業の紹介

小島善太郎記念館受付

●長年の実績と実力でおもてなしの受付を

今年で生誕120年を迎える洋画家小島善太郎さんの住居（百草777）を日野市が譲り受け、昨年5月に「小島善太郎記念館」として開館しました。新選組のふるさと歴史館受付業務や小島善太郎展受付などの実績が買われて、市民サポートセンター日野が受付業務をお引き受けしています。土日祝日の開館日にはスタッフ2名が対応しています。開館までに青梅市立美術館での研修、接遇研修などを経て、記念館ガイドボランティアさんと共に、百草丘陵に佇む記念館でみなさまのご来館をお待ちしています。

新選組のふるさと歴史館

●日野市の歴史を案内して50周年に貢献

今年の新選組まつりでは「50周年記念お赤飯」を販売し好評でした。

新選組のふるさと歴史館では25年10月中旬から「市制施行50周年記念特別展　日野市の半世紀～移りゆくまちの過去と今　そして未来」が開催されました。特別展は高幡図書館、日野宿交流館でも展示され、多くの市民が来場しました。高幡図書館の展示では、新選組のふるさと歴史館スタッフを中心としたメンバーが受付業務を担い、市制50周年事業に貢献することが出来ました。

ひとり親・すくすくサポーター

●ファミサポとの連携でお子さんも安心

育児支援家庭訪問事業、通称「すくすくサポーター」事業は日野市より受託して9年目になります。子ども家庭支援センターのワーカーの計画のもと、子育てに不安を持っているご家庭をファミサポの提供会員の中でもベテランの方々に訪問していただいています。

ひとり親ホームヘルプはひとり親家庭に出向き、主に掃除、洗濯、食事作りなどの家事を行いますが、子どもの保育園送迎はできません。最近はひとり親の方がファミサポに登録し保育園送迎を頼む例も増えてきました。そこで当法人所属のヘルパーは、提供会員として保育園に迎えに行っていただきその後はヘルパーとして家庭で家事をします。同じ方が両方の役割を行うことで、小さいお子さんも気持ちが安定し、良い効果を上げています。

多摩平交流センター指定管理

●市民ニーズをどう生かすかが今後の課題

日野市立多摩平交流センター管理と多摩平の森ふれあい館総合受付を担っています。平成25年度は交流センター使用が有料となり、それに合わせて総合受付ではレジスターを導入。円滑な受付業務を行うため、事前に何度も研修を実施し試行期間も設けるなど、使用料の授受に不都合が無いよう心がけた一年でした。多摩平の森ふれあい館は複合施設で、様々な市民の方が利用します。それぞれの方のニーズをキャッチし交流センター使用の利便と指定管理者としての管理上の決まりごとを、市民の方々にご理解いただくことにも力を入れました。おかげさまで大きなトラブルもなく新年度を迎えられそうです。

ひの市民活動団体連絡会

●他団体との連携・協働を進めていきたい

フェア風景/「子どもに伝えたい和のおかず」についてのアンケートも…

日野市には市民活動を支援する中間支援組織「ひの市民活動団体連絡会」があります。平成23年度から当法人事務局長は連絡会副会長として、日野市の市民活動全体を視野に入れた活動をしています。今年度も昨年に引き続き第2回ひの市民活動フェアに法人として参加し、おかずクラブ、カフェ、ふれんどさんを中心に活動をアピールしました。今年は市民活動団体連絡会を通して交流が出来た他団体（おかずクラブでお世話になったNPO法人「めぐみ」さん、講演会の保育でコラボしたNPO法人「子どもへのまなざし」さん）と、活動の上でも協働しています。今後、他団体との協働の場を増やしていきたいと考えています。

陽だまりプロジェクト

一昨年から、NPO法人の自主事業として「陽だまりプロジェクト」を開始しました。「陽だまりプロジェクト」とは、当法人が理念と設立以来大切にしてきた「家族支援」「地域貢献」を、自主事業として行う場合に使う名称です。現在、陽だまりプロジェクトは4つ。開始した順から、陽だまりカフェ、ふれんどさん訪問事業、高次脳機能障害者と家族の会かしのきひの運営支援、おかずクラブです。それぞれ、他には見ない活動を行っています。

陽だまりカフェ

●ふれあい館3階で営業中のコミュニティカフェ「カフェ・グリーン」が出張します。

市内グループホーム食堂で…
入居者の皆さんと「カフェに行った気分で」

きっかけは、近くのグループホームの入居者が職員さんに車いすで毎日カフェ・グリーンに通われたことから始まります。「おいしいコーヒーを他の入居者にも飲ませたい」というお客様の気持ちを知ったカフェスタッフから、「ふれあい館まで来られない方のために出張したい」と提案がありました。この2年間に出張カフェ16件、イベントカフェ9件、計2710杯のコーヒーを児童館、グループホーム、各種お祭りで提供しました。お店と同じ手淹れコーヒーを100円で味わっていただくと、どなたも「おいしい」とにっこり。児童館では若いお母さん向けにコーヒーの淹れ方講座、子育て相談をセットにして実施しています。

出張をご希望の方は電話042-583-1528　NPO法人事務局まで。

●カフェグリーンが地域のコミュニティづくりへ、リニューアル

カフェグリーンは、コミュニティカフェとして平成16年の多摩平の森ふれあい館開館と同時に3階の一角に設けられました。設計図では自販機置場にする予定の空間を、市民サポートセンター日野の前事務局長下重喜代が日野市に「コミュニティカフェを作りましょう」と提案してできたカフェです。

コミュニティカフェ カフェ・グリーンと名付けたカフェは提供するコーヒー、紅茶にこだわり、フェアトレードの商品を扱い、「LOHASなカフェ」を目指しました。LOHASとは、英語の「lifestyles of health and sustainability」（健康と持続可能性の、またこれを重視する生活様式）の略で、「健康と環境を志向するライフスタイル」のことを言います。カフェではこの数年、よりおいしいコーヒーの提供を心がけ、手入れコーヒーの研修や接客研修などを行い、お客様にとっての居心地の良い空間づくりに努めてきました。

しかし、10年経って、多摩平の様子も変化しています。来年は隣にイオンモールの開設も予定されています。そこで、今年のカフェグリーンは、陽だまりカフェの実施に加えてさらに地域に根ざすカフェづくりに取り組みます。カフェボラによる集会室や戸外でのイベント、事務局職員のスキルをお客様に楽しんでいただく講座、等々、楽しい企画を検討中です。カフェボラ志願の方はいらっしゃいませんか。事務局までご連絡ください。

ふれんどさん訪問事業

●おかあさんといっしょ…ふれんどさん訪問事業

ふれんどさん、笑顔で打ち合わせ。

ファミサポの新しい展開「ふれんどさん事業」を始めて2年がたちました。この間、ふれんどさん紹介と申込書を付けたチラシを、保健師さんや各子育て関連施設、市役所などを通して市民の方々に周知してきました。ファミサポはお母さん不在時の活動ですが、ふれんどさんはお母さんと一緒に行動し、寄り添います。一緒に買い物へ行く、一緒にお料理する、一緒に子育てする、一緒におしゃべりする、等々。

4～5回の訪問で、「ふれんどさん」という社会資源にふれたお母さんは、もう一歩踏み出しファミサポの利用会員になったりします。「一人ではない、誰かと一緒にやればできる」と自信と安心を持ってもらう子育て支援事業です。

ふれんどさんは20名。半年に一度、ふれんどさん会議を開き、常にブラッシュアップしています。2年間で17件の申し込みがあり14件を訪問、そのうち8割がファミサポにつながりお母さんの孤立化を防いでいます。保育園の地域子育て支援の場のお手伝いも、毎年50件以上を訪問しています。

陽だまりプロジェクト

おかずクラブ

●作って交流、食べて幸せになる参加型料理イベント

日野は緑と清流のまち、野菜の豊富なまちです。おかずクラブは市民サポートセンター日野が提案する「日野の野菜を使って伝統的なおかず作りをしながら交流する参加型料理イベント」です。

1. 地元で採れた野菜を使う　2. 料理をしながら世代交流　3.毎日の献立に役立つ知識の伝授をコンセプトとしています。

10月には多摩平児童館とコラボして若い母親12名と子どもたち、11月には9名の母親と子どもたちをメンバーとしておかずクラブinたまだいらを実施しました（3回目は平成26年2月）。子どもはふれんどさんが保育。ママたちは身軽になって調理室に向かいます。サバの竜田揚げ、蕪蒸し、キンピラ等を作って食べて交流しました。平成26年度は、高齢者に焦点を当てたおかずクラブを新井地区で行う予定です。

ひの野菜で作った4種類のきんぴら

これが大根ですよ

今年度の参加者のママたちにこれからのおかずクラブへの参加を呼び掛けたところ、多くの参加者が、今後の何らかの形で関わりたいという声を寄せてくれました。おかずクラブは、若いママたちの日野への帰属意識を高め、地域の活性化を図りたいと考えています。

例えば、おかずクラブ参加者をおかずクラブ会員としてネットワークし、Facebookなどを使いながら地域情報の双方向の受発信を行なうなどです。いろいろな方法を使って地域の野菜販売所の日々の情報や、地元野菜レシピなどを交換する場づくりをすること。家に引きこもりがちな高齢者や若いママがその情報を得て、野菜販売所に散歩に行きたくなったり、そこでの出会いから新しい付き合いが生まれたり…。楽しい場づくりも提案していきます。関心のある方は事務局までご連絡ください。

ママと離れてふれんどさんとおしゃべり（保育中）

素材の50度洗いを習って体験

高次脳機能障害者と家族の会かしのきひの運営支援

●当事者と家族が安心して生き生き暮らすために

高次脳機能障害は、脳血管障害（脳梗塞や脳出血など）や頭部外傷（交通事故や転落など）により脳の一部が損傷した方に残る後遺症で、記憶できない、注意力が落ちる、すぐカッとする、状況判断が出来ない、作業を計画的にこなせない、道に迷う、作り話をする、自分の障害を認識できない、金銭管理が出来ない、同じことを何度も言う、などの症状が出ます。身体機能は今迄通りで記憶、注意などの認知機能が低下するため、同居する家族は対応に戸惑います。高次脳機能障害は見えない障害と言われ、なかなか人にわかってもらえません。そのため、同じ障害を持つ当事者同士、家族が気軽に集まりおしゃべりや相談できる場づくりが必要です。かしのきひのは、2年前に発足した日野市の当事者と家族の会です。

市民サポートセンター日野は家族の支援のため、ニュースレターの制作など事務局機能を引き受けて、会の運営支援をしています。

（かしのきひの連絡先：080-8426-8635）

編集後記

2020年の東京オリンピックに向けて日本中が喧しくなってきました。景気も良くなり人々の生活ぶりも変化していくかもしれませんね。7年後、私たちはこのNPOでどんな活動をしているだろう…と2014年を迎えました。皆様にとっても明るい一年になりますように。

NPO会員募集

NPO活動を活発化するためにNPOの趣旨に賛同し支援してくださる方を募集しています。
ご協力ください。会員の種別と会費は以下のとおりです。同時に寄付も受け付けております。
◆一般会員　1,000円　◆賛助会員　3,000円　◆法人会員　30,000円　◆運営会員　10,000円
入会金（一般会員、運営会員のみ）1,000円　振込は下記の振込番号にてお願いします。
郵便振替番号　00180-0-612689（手数料は会員負担でお願いいたします）

NPO法人市民サポートセンター日野が提案する「地域三世代」のすすめ

日野市は平成25年5月に「三世代がよりそうくらし」基本方針を発表しました。基本方針策定に先立ち、平成25年初春に市民団体、NPO法人に対し、それぞれが考える三世代のくらしのプレゼンテーションがありました。市民サポートセンター日野では「血縁から地縁へ」というメッセージを込めて「地域三世代」のすすめを提案しました。

1 血縁より地縁 ～ファミリー・サポート・センターの現場から～

子育てや家事の支援を地域の有償ボランティアとして行っている日野市ファミリー・サポート・センターでは保育園、学童への送迎、妊産婦、障害者(児)、子育てがうまくできない親の援助などの依頼件数が増加しています。

- 引っ越してきたばかりで…近くには知り合いも親戚もなく、どこで子どもを遊ばせたらいいのか、小児科はどこがいいのか、わからない。
- 出産後の病院から…上の子の保育園の送迎をしてほしい。あてにしていた祖父母は病気で頼めなくなった。夫は単身赴任。退院してからもどうやって2人の子育てをすればよいのか。
- 高齢者からの依頼…近居している共働きの息子夫婦に知られないように家事支援をしてほしい。

血縁による三世代同居、あるいは血縁の近居は子育てや介護の面で理想的な居住形態かもしれません。しかし、就労や住居事情により血縁家族の近くに住めない方は増えているのが現状です。

また、同居や近居をしていても祖父母世代も就労や介護のため、子世代のサポートができない、あるいは子夫婦が近居していても「子どもの世話になって迷惑をかけたくない」という高齢者も増加しています。経済的な事情や女性の生き方として働くことが当たり前の考え方が浸透し、共働き家庭も増加しています。

ファミサポは地域の三世代の結びつきで助け合いを行う活動です。子育てが一段落した女性が主となって提供会員となり、多少無理な依頼でも困っている子育て世代に対して、手を差し伸べ、つながり合う気持ちを大切な活動です。ファミサポという「場」に「子育て、生活支援」という目的が重なり、世代の異なる人々が結びついているのです。

ファミサポ
「ありがとう」
「どういたしまして」
「おたがいさま」
の循環システム

2 「地域三世代」がふれあう場でまちを豊かに

地域三世代とは

NPO法人市民サポートセンター日野ではこの現状を鑑み、三世代を「地域に生きるさまざまな世代（地域三世代）」と読み替えました。この“世代”は子ども世代、親世代、祖父母世代の3世代のほか、障害者、子どものいない家庭、ひとり親家庭、女性…というさまざまな世代（グループ）も含みます。

世代ミックスグループ活動

今回の基本方針案の目的とされている地域コミュニティの再生のためにはこれらの世代を様々なテーマで集めた「場」を創り、その活動を促進することが必要であると考えます。PTA、老人会、障害者団体、など単独の属性の集団は、その集団への利害追求が活動の中心となりがちです。それも必要な場ではありますが、あらためて別々のグループを組み合わせることによって、問題解決やくらしを豊かにするようなアイデアや活動が可能になるのです。

私たちはこれを「世代ミックスグループ活動」と名付けました。

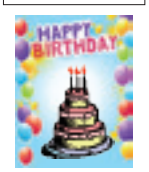
お互いを知るためにはそれぞれがふれあう場があり、その違いを肌で感じることで共通理解も生まれ、つながることの幸せを実感します。そこから新しい発想も生まれるのです。

このような世代ミックスグループの「場」の条件として以下の6つの点があげられます

キーワードは「ありがとう、どういたしまして、おたがいさま」	複数の世代（グループ）が関わっている
ふれあう「場」にはたくさんのメニューが用意されている	目的が明確に設定されている
今ある社会資源を利用する	人間の生と死のイベントを身近なものにし、いのちの大切さを感じ取れる要素がある

3 NPO法人市民サポートセンター日野が提案する、世代ミックスグループ活動 と 三世代よりそい啓発プロジェクト

みんなの誕生日をみんなで祝おう



地域三世代よりそい循環すごろく

ファミリー・サポートセンターの新しい展開「ふれんどさん」
子育て世代×子育て卒業世代　全地域
●子育ての仕方について、地域の経験者である「ふれんどさん」が無償で訪問し、一緒に悩みを解決します。ファミサポの新しい展開として平成24年度からスタート。すでに15組が利用し、大変な子育て時期を乗り切るお手伝いをしています。在宅お母さん支援として子ども家庭支援センターからも評価されています。

バーベキュー交流ひろば　全世代　川辺堀之内
●清流、自然をテーマとして、堀之内地区の資源を活かした、交流ひろば。JA、角上水産、浅川河川敷、ドッグラン、渡し船など、地域のリソースの中心となるバーベキュー広場。いろいろな世代が集い、楽しめる。
　世代が寄り合う機会として、誕生日会をプロデュースし、誰もが1つは持っている、1年の特別な日を演出する。

0歳児ステーションおむすび
0歳児の母×地元企業　高幡・多摩平地区
●当法人が高幡駅近くで展開する、ゼロ歳児一時預かり保育施設。赤ちゃんの預かりだけではなく、出産によって職を離れたり、いままでの就業形態の維持が難しくなっている母親の潜在的能力の掘り起こしをする。赤ちゃんをお預かりする間、地元企業とのコラボレーションによる創業支援やスモールビジネスへのきっかけを作るような講座や場を提供する。地場産業の担い手の創出。

世代ミックス同居プロジェクト　単身高齢者×大学生
程久保地区
●高齢化率の高い程久保地区では居住家屋も大きく、空き部屋のある高齢者の住まいもあります。モノレール沿線の大学に通う学生に割安で部屋を貸し、その代りに学生が「できること」に貢献することで、孤独化を防ぎ、地域活性化を図る。学生の「できること」はゴミ出し、月に1度食事をする、買い物、自治会への出席など。空き家再生にはない効果も期待されます。

おかずクラブ
単身高齢者×若い母親×ファーマーズセンター　多摩平・新井地区
●一人分のおかずをつくるのが大儀で栄養不足の単身者」と「料理の仕方がわからない若い母」たちが集い、地場野菜を使って料理。料理教室ではなくそれぞれの参加者が自分の知恵や力を出し合ってその週のおかずを何品か作り置き。できたおかずはすこしずつ持ち帰る。
おはぎ、ちらしずしなどの行事食もみんなで作れば楽しい!